令和５年11月30日　消費者庁サステナブルファッションサポーター懇談会

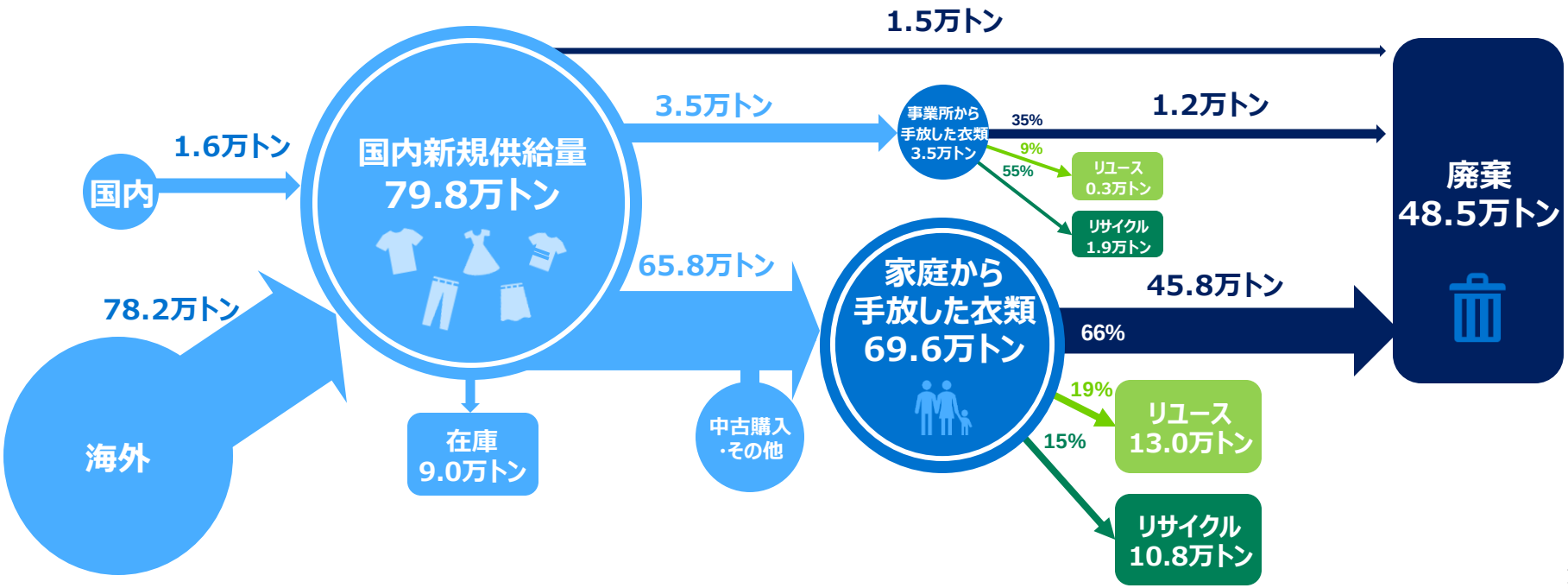
ファッションを持続可能に

環境省「ファッションと環境」タスクフォース
環境再生・資源循環局　総務課　循環型社会推進室
室長　近藤　亮太

衣類のマテリアルフロー（2022）

- **衣類の国内新規供給量は計79.8万トン**（2022年）に対し、
  その**約９割**に相当する**計73.1万トン**（69.6万トン+3.5万トン）が事業所及び家庭から**使用後に手放されると推計**。
- このうち、**廃棄される量**は**計47.0万トン**、手放される衣類の64.3%
  リサイクルされる量は**計12.7万トン**、手放される衣類の17.4%
  リユースされる量は**計13.3万トン**、手放される衣類の18.1%

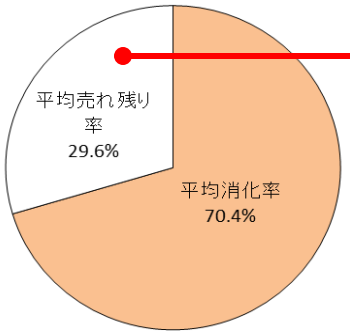
2022年版 衣類のマテリアルフロー



国内衣類のマテリアルフロー　（2022年）売れ残り商品の廃棄率

・アパレルの平均消化率は約70%*、平均売れ残り率は約30%
・売れ残った製品のうち、約2%が廃棄処分される

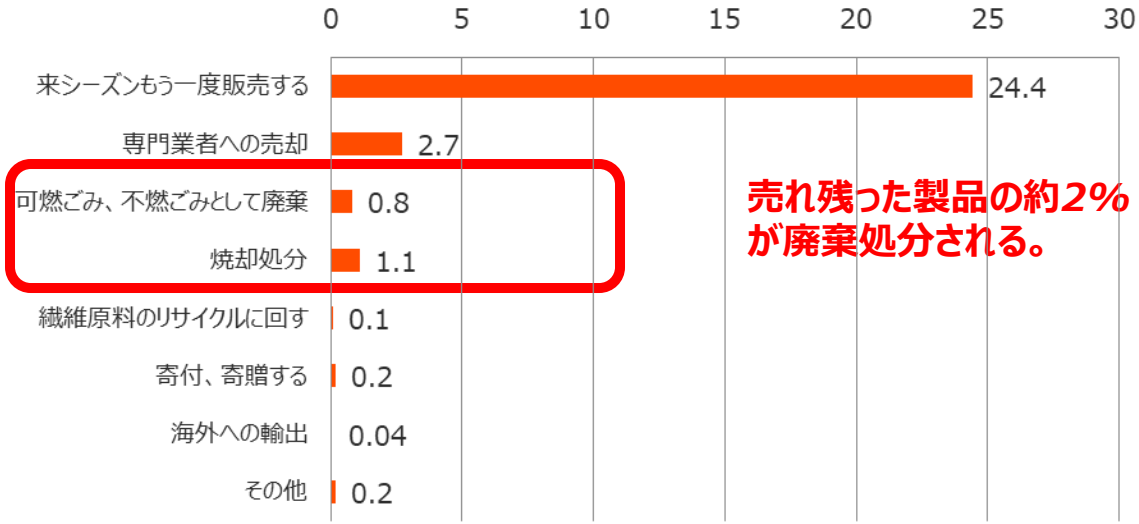
消化率と売れ残り率（平均）(n=72)
（アンケート調査結果）



※売れ残りがあると回答した企業の平均消化率と売れ残り率。「消化率約100%」以外。

※「その他」「把握していない」回答を除く

売れ残った製品への対応（構成比平均）



売れ残った製品の約2%が廃棄処分される。

調査概要	
調査票送付数	：190社（国内のアパレルメーカー、卸・商社、小売業）
調査期間	：2022年12月12日~2023年1月13日
調査方法	：WEBアンケート調査（一部電話ヒアリング）
回収数（回収率）	：109社（57.4%）
調査担当	：株式会社矢野経済研究所

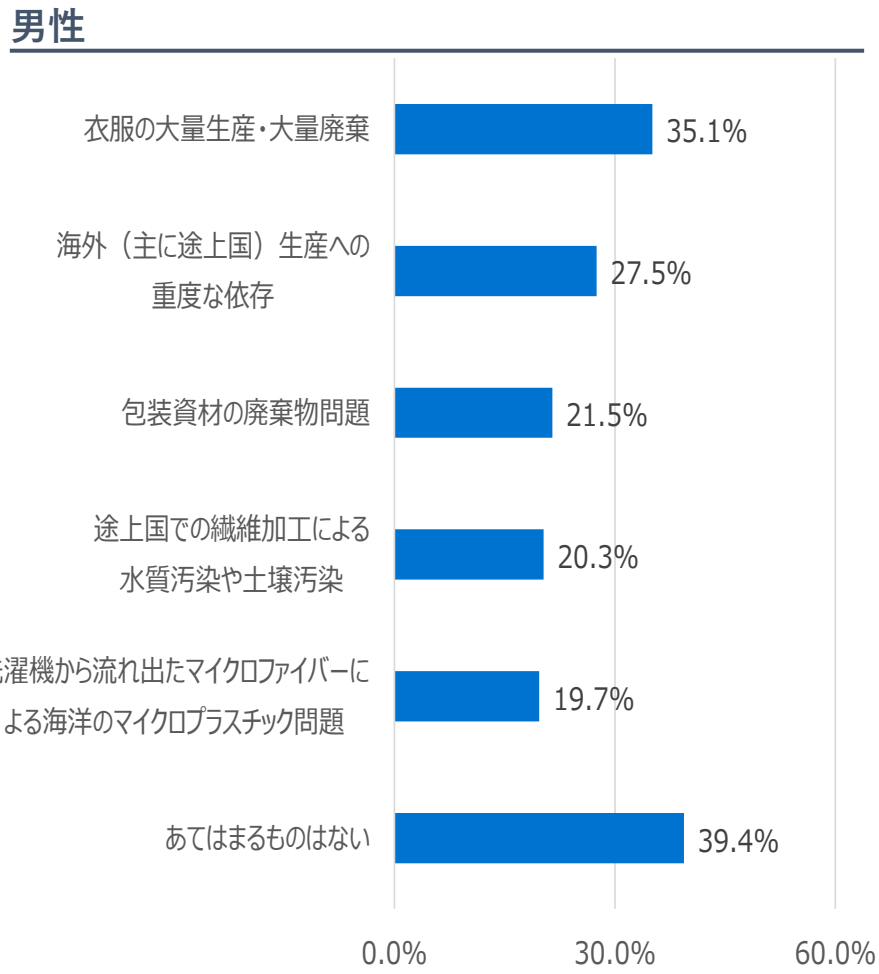
株式会社矢野経済研究所作成

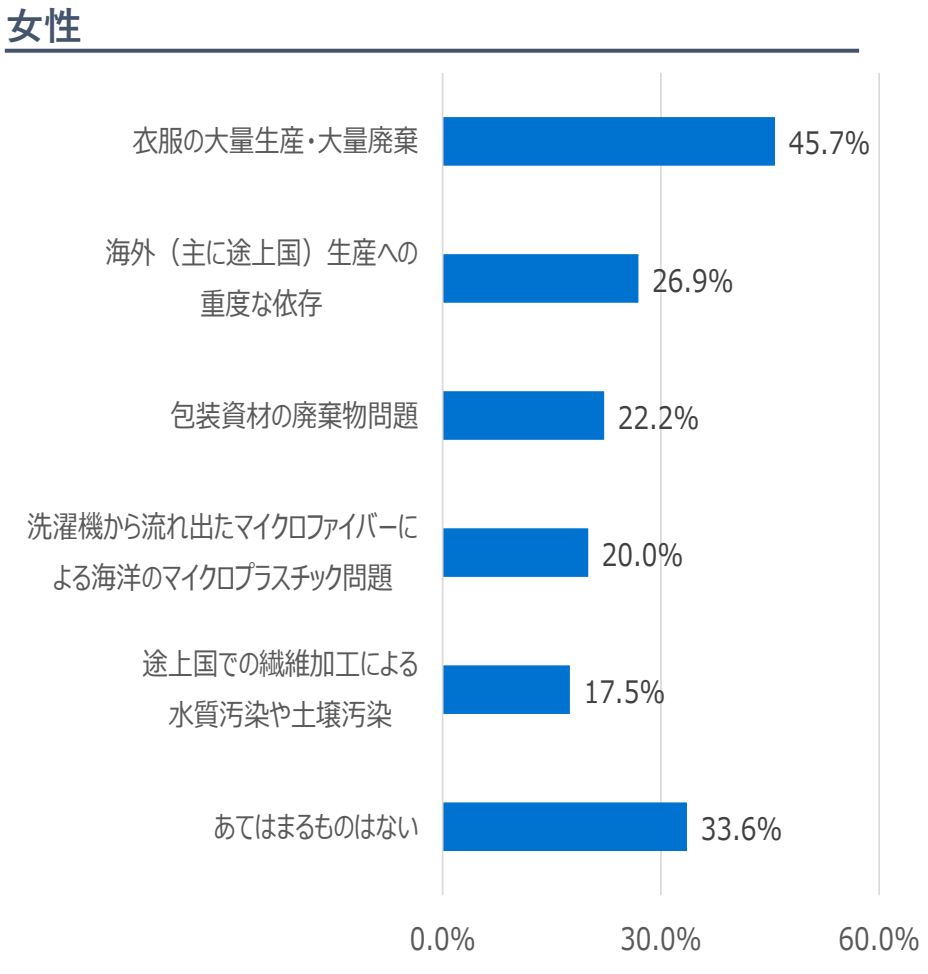
出典：環境省 令和4年度循環型ファッションの推進方策に関する調査

大量生産・大量廃棄、海外依存は認知

Q.ファッションを取り巻く状況・社会問題として知っていた内容を全て教えてください。

（n=6,981、単位：%）





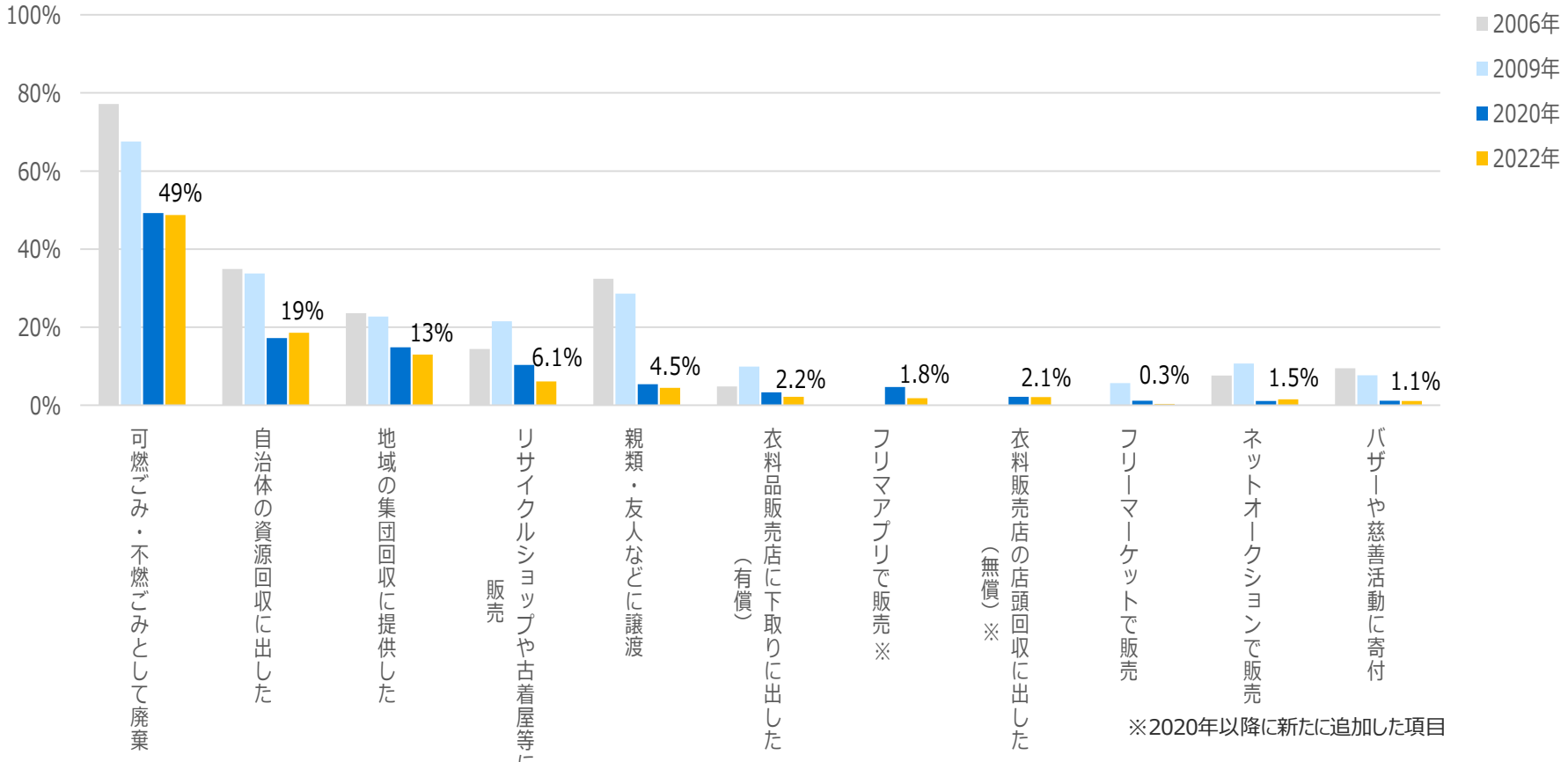
出典：環境省 令和4年度循環型ファッションの推進方策に関する調査

手放した衣服の処理方法

- 手放した衣服の約半数が可燃ごみ・不燃ごみとして廃棄されている状態
- 2022年の「自治体の資源回収に出した」は、2020年より1.4ポイント増

Q. 過去1年間に手放した衣服について、種類と処理方法について選択してください

（n=6,981、単位：%）



※2020年以降に新たに追加した項目

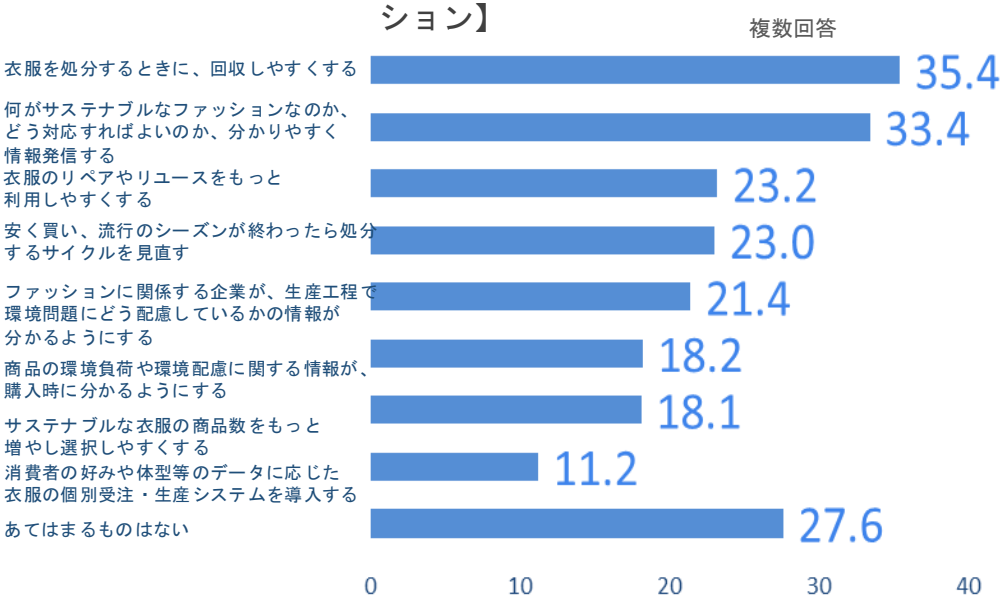
出典：環境省 令和4年度循環型ファッションの推進方策に関する調査

多くの関心を集めるサステナブルファッション！

【サステナブルファッションの認知と関心】

継続層	具体的な取組を行って６ヵ月以上である	3.0%
実行層	具体的な取組を行って６ヵ月未満である	0.7%
準備層	関心があり、ここ１ヶ月以内にできることは実行したい	3.2%
関心層	関心はあるが、日常生活の中で具体的な行動は起こしていない	29.2%
無関心層	知っていたが全く関心はない	16.0%
非認知	（アンケートに回答するまで）サステナブルファッションを知らなかった	47.9%

【サステナブルファッションの解決に必要と思うアクション】



- サステナブルファッションの認知は半数以上(52.1%)
- 関心がある層は36.1%で、認知者の約７割
- 実行している層は3.7%
- 解決に必要な事は、「衣服処分時の回収のしやすさ」「情報発信」

出典：環境省 令和4年度循環型ファッションの推進方策に関する調査

衣類回収の３ルート

①行政回収、②集団回収、③店頭回収

①行政回収

- 全国1,741市区町村のうち、997市区町村（57.2%）で布類の収集を行っており、人口比では64%
- 700市区町村（5,040万人）ではステーション式の収集
- 収集による自治体の回収量は130,814t

集められた衣類は入札等により古着・古布の回収・再利用の事業者である故繊維業者に引き取られる

②集団回収

- 自治町会、子ども会などの住民親睦団体が、家庭から出る古紙・缶・布類・びんなどの資源を持ち寄り、自分達で契約した回収業者に引き渡す自主的な資源リサイクル活動
- 布類は直接あるいは間接的に故繊維業者が回収
- 報奨金等により支援している自治体もあり、自治体が把握されている衣類の回収量は60,744t

衣類回収の３ルート

③店頭回収

- 衣類を販売している事業者がその店頭で回収を行うもの
- 回収を始めたきっかけは、

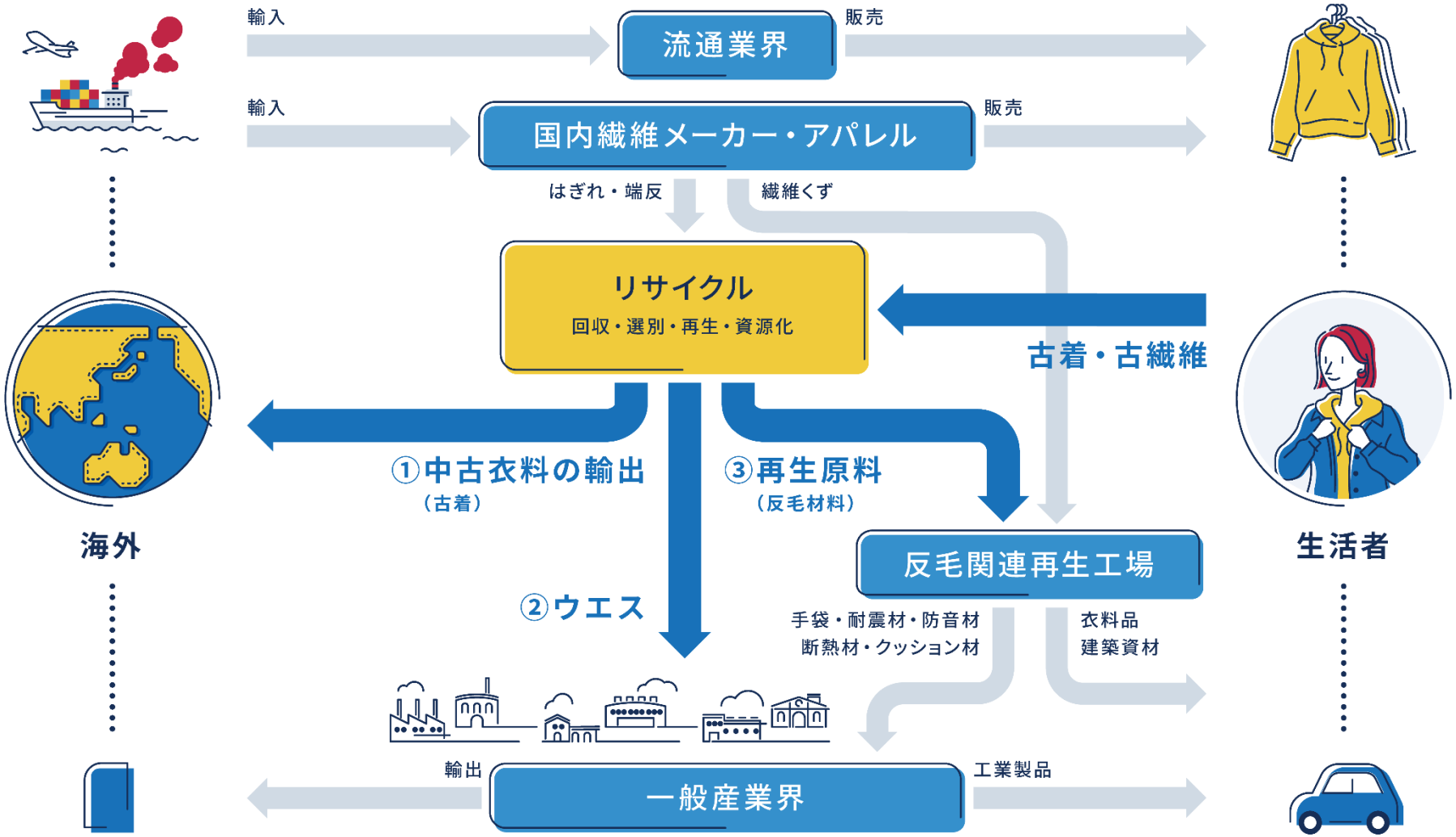
  ①顧客の来店を促す

  ②環境意識の高まり

  ③企業の責務
- 手法については、常時実施か期間限定か、全店舗か一部店舗か、回収ボックス設置の有無、下取りクーポンやポイントの発行の有無、自社製品限定か否かなど多様
- 回収された衣類は、自社でリユースする事業者もあるが、大半は故繊維事業者などの外部パートナーに輸送され、再利用や燃料化
- 外部パートナーへの輸送費、回収ボックスの設置費、ポイント付与などを行っていればその経費、人員配置を行えば人件費などが必要となり、事業者が負担

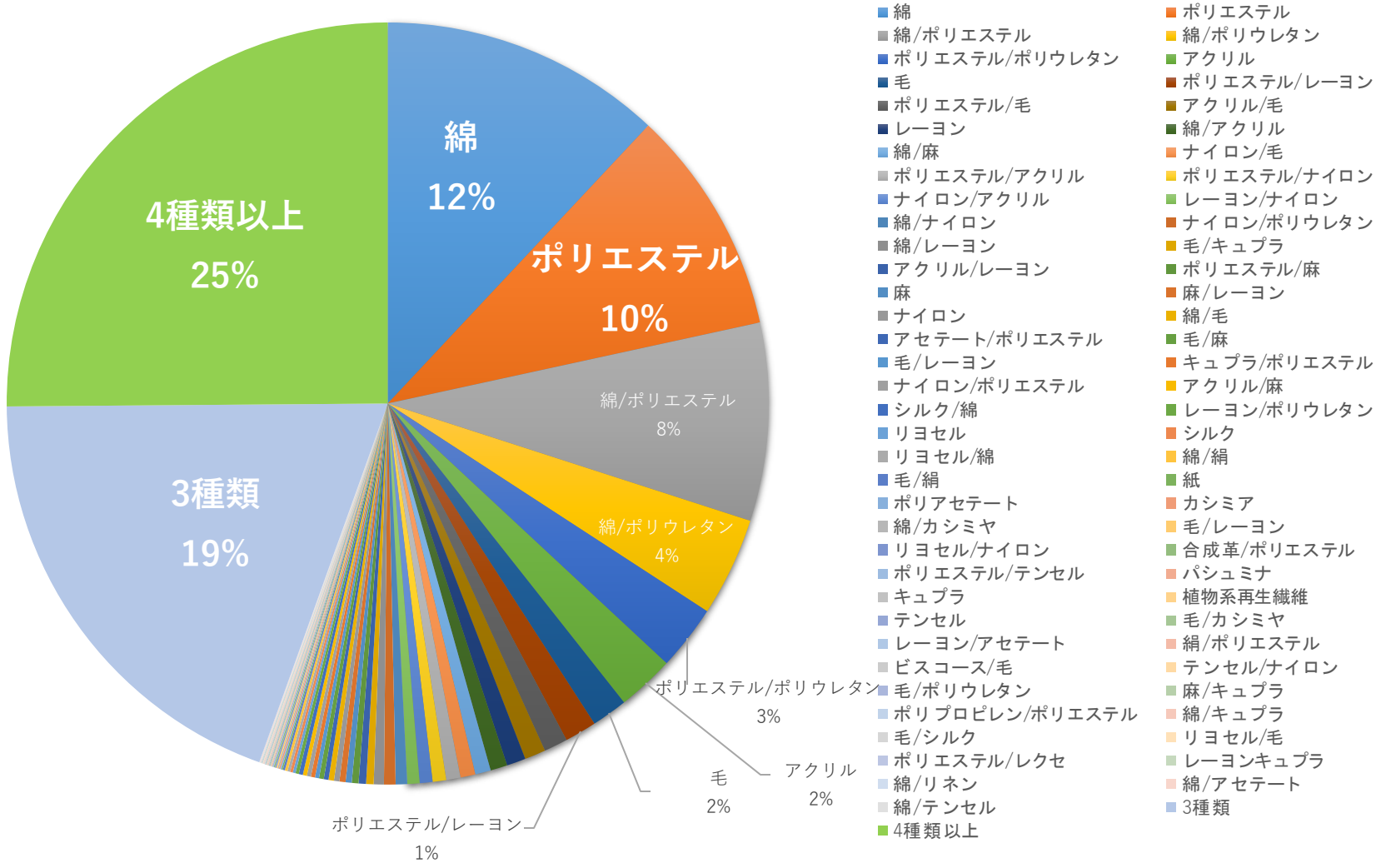
繊維リサイクルの現状

繊維リサイクルの資源化循環図



手放された衣類の素材別割合（行政回収）

- 自治体等が回収している衣料のうち、単一素材は約27%、２種素材は約28%、３種素材は約19%、４種以上は約25%



出典：環境省調査（ナカノ株式会社協力）古着古布選別割合データ（店頭回収）調査期間：2022年12年7日～2023年1月13日　計20日間
調査量：3479kg　神奈川・東京・静岡の行政回収品から単一素材、２種素材、３種素材をそれぞれ調査、４種以上は一括り

繊維再利用の課題

- 大量生産と低価格化によりリユース価値が低下
- ウエスや反毛の需要が低下

➢従来の仕組みでは規模拡大が望めない状況

➢市町村が回収するにも行き先がない

- リサイクルの技術開発は進みつつある
  - ✓ マテリアルリサイクル（コットン、ダウン、ウール）
  - ✓ ケミカルリサイクル（ポリエステル、ナイロン）
- 衣類は混紡品が多く、ファスナーやボタン等の副資材を含めると複数の異なる素材が用いられていることから、リサイクル可能な衣類は限定的

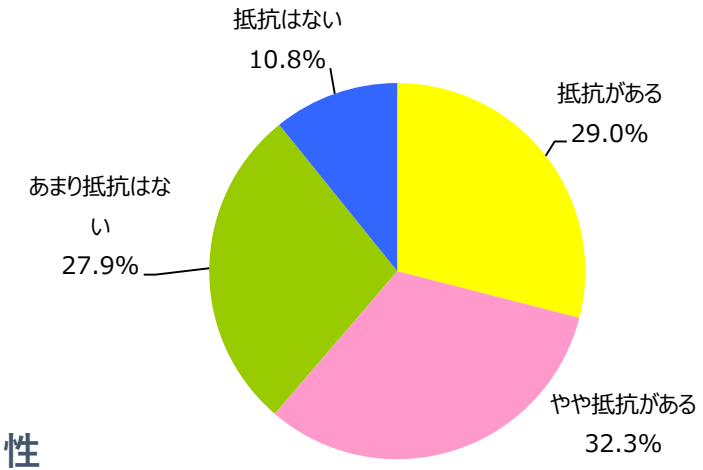
➢選別技術・リサイクル技術の高度化

➢リサイクルを前提として川上から川下まで、共通の配慮事項（環境配慮設計）が必要

衣服のリユースを着ることの抵抗感

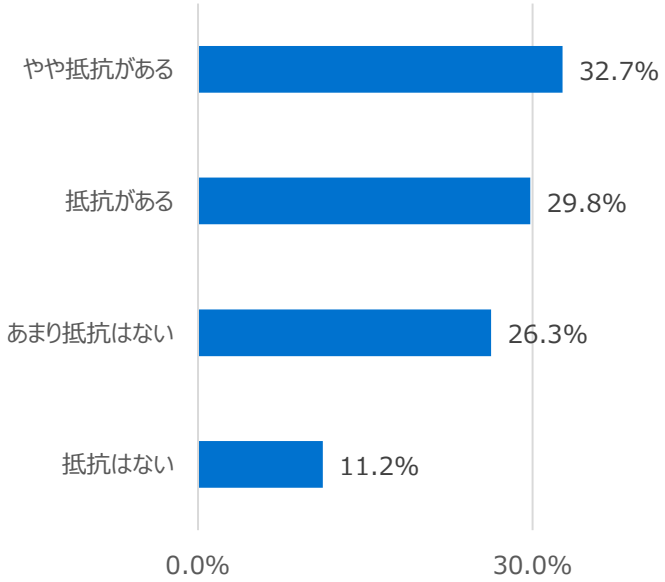
Q.あなたはご自身あるいはご家族がリユース（古着等）を着ることについて、どの程度抵抗がありますか。

（n=6,981、単位：%）

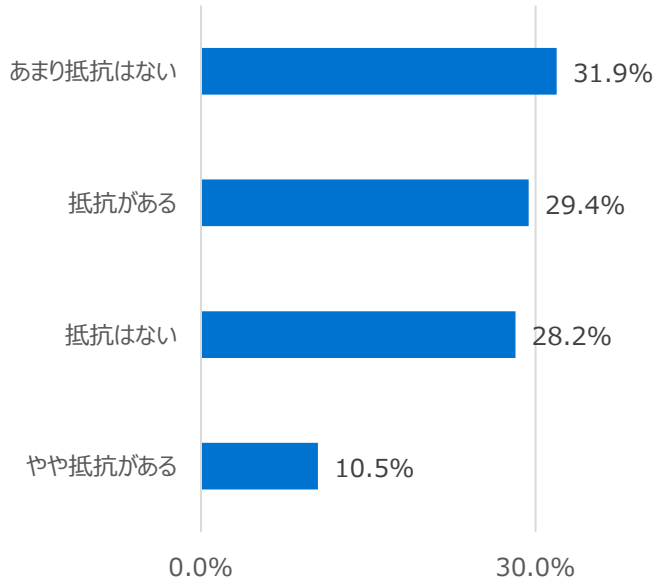


- 全体では「やや抵抗がある」が最も多く、次いで「抵抗がある」となった。古着を着用することについて6割以上が抵抗があると感じている。
- 女性は、男性より「あまり抵抗はない」の割合いが高い傾向

男性



女性

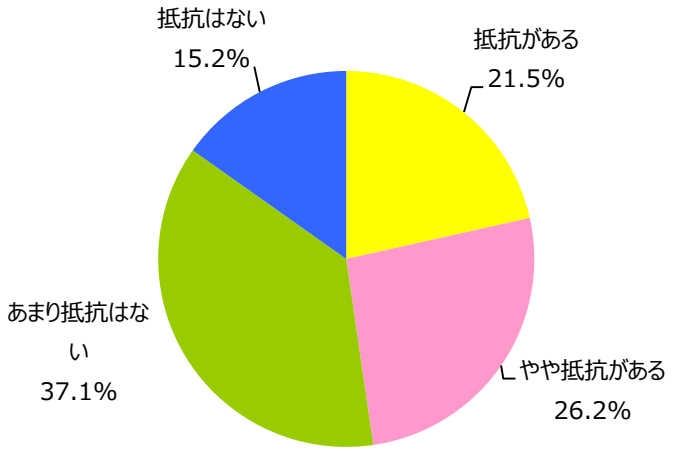


出典：環境省 令和4年度循環型ファッションの推進方策に関する調査

衣服をリユースに出すことの抵抗感

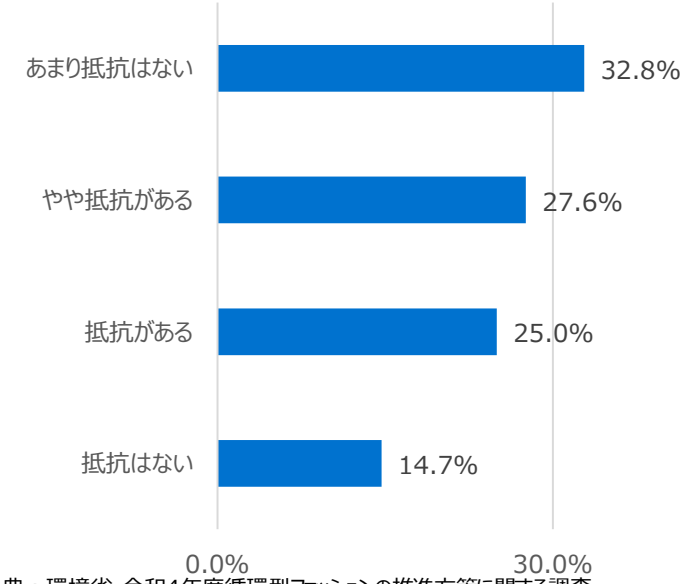
Q.あなたはご自身あるいはご家族が着用した衣服をリユースに出すことについて、どの程度抵抗がありますか。

（n=6,981、単位：%）

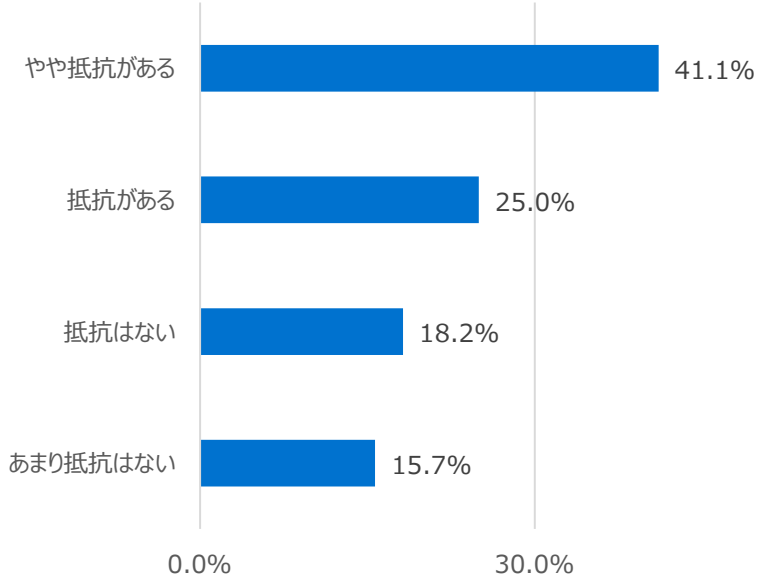


- 「抵抗はない」「あまり抵抗はない」の合計で過半を占める
- 男性は女性より衣服をリユースに出すことについて、「抵抗はない」割合が高い傾向

男性



女性



出典：環境省 令和4年度循環型ファッションの推進方策に関する調査

令和４年度 使用済製品等のリユースに関する自治体モデル実証事業

京都府京都市

市域内で衣服を循環させるためのプラットフォームの創出を目指す。

・リユース事業者が、京都市内の銀行等に衣服を回収する回収BOXを設置
・回収した衣服について、リユース事業者が仕分け
・再利用可能な衣服について、市内の小売り・卸事業者やイベント等で販売

循環フェス

（1）￥0（ゼロエン）Market

アンケート回答者を対象に、「RELEASE⇔CATCH」の衣服回収BOXや7月に開催した循環フェス等で回収した使用済衣服を無料で提供します（一人3点まで。なくなり次第終了）。御家庭で不要になった衣服も当日回収します。

（2）循環Market

カバン、アクセサリー、家具等、衣服に限らず様々なリユース品、リメイク品が集まるフリーマーケットです（有料）。ある人にとっては不要になったモノが必要とされる人の手に渡り、地域内で再活用されることを目指します。

（3）Natural Marche

添加物などを極力使用しない，こだわりの飲食ブースを設けます。

主催　株式会社ヒューマンフォーラム、京都信用金庫、梅小路周辺クリエイティブタウンエリアプラットフォーム準備委員会

共催　京都市、公益財団法人京都市環境保全活動推進協会

令和５年度 使用済衣類回収のシステム構築に関するモデル実証事業の採択結果について

使用済衣類回収のシステム事業を実効的に推進するための先進的事例を創出し、広く情報発信・横展開を図ることを目的に、地方公共団体、リユース関連事業者又は市民団体を対象に、先導的なモデル施策を実施する事業の公募を実施。（公募期間：令和５年５月19日～６月19日）

◆採択結果

地方公共団体	事業名	事業の概要
愛知県豊田市	「衣類」の資源循環・サーキュラーエコノミー実証等～使用済ユニフォームや衣類の回収、再製品化を「ミライのフツー」に～	若者と共に産学官民が連携した脱炭素社会推進プロモーション事業（NewVibeZ）の一環として実施する取組。連携企業の使用済みユニフォームをケミカルリサイクル・再製品化し、その前処理の一部を就労継続支援 B 型事業所にて実施することで地域内の支え合いを実現。また、市周辺で開催される集客力の高いイベント等において、衣類回収や企業向けオンラインセミナー等を実施する。
学校法人山内学園 香蘭女子短期大学	若年層（Z世代）における使用済衣類回収・循環のシステム構築に係る実証事業	授業の一環として、古着の収集・リユース等を行い、地域のフリーマーケット及びフリマアプリで販売することで、地域の衣類廃棄を削減する取組。 また、若年層への影響力が高いインフルエンサーとも連携し、古着の利活用・販売等をZ世代向けにデモンストレーション・周知する活動を実施する。取組の様子はオンラインで配信し、より幅広い地域・消費者への周知を目指す。
株式会社京葉十二社広告社	こども服交換会・フォーマル服レンタルの会・こども服おゆずり会	東京都江戸川区にて、こども服の交換会・おゆずり会、またフォーマル服レンタル会を開催する。こども服の交換会・おゆずり会では、小さくなってこどもが着られなくなった洋服を持ち寄り、必要な方に無料で引き取っていただくリユースの機会を設ける。区内で各種取組を開催することで、区民への情報周知を通じて、衣類を大切に循環させる仕組みを活用してもらうことを目指す。
株式会社 BIG EYE COMPANY	使用済み衣服の広域回収＆循環プロジェクト『KURU KURU Fashion Project』	本事業では徳島県内で特に廃棄衣類の課題を抱える自治体とともに使用済み衣類の回収を行い、広域での廃棄衣料の再利用化と再資源化に向けた連携体制の構築を目指す。今年度は初年度として、上勝町の町内施設及び徳島県庁での衣類回収、県庁職員を対象とした分別ワークショップ、リメイク・リペアの上での再利用、マテリアルリサイクルの実施等を行う。
京都府京都市	地域内での使用済衣服の回収＆循環のプラットフォーム「RELEASE⇔CATCH（リリース・キャッチ）」創出のための実証事業	京都市内に衣服を回収する回収BOXを設置し、古着事業者による仕分けを行い、再利用可能な衣服について、小売り・卸事業者やイベント等で販売、循環させるプラットフォーム「RELEASE⇔CATCH」（令和４年度に構築）の回収BOX設置場所拡大、リユースの販路拡大を目指す。また、「RELEASE⇔CATCH」を活用し、アップサイクル製品の販売、リサイクルルートの多様化、教育現場への普及啓発を目指す。

回収に関する課題と取組の方向性

現状と課題	取組の方向性
生活者に対し、故衣料品が「資源」であることが十分に認識されていない	環境整備 **国・自治体・事業者による普及啓発**
利便性のある故衣料品の回収場所が存在しない	環境整備 **回収拠点のより一層の整備**
「専ら物」に関する自治体の理解促進	周知・広報 自治体の**グッドプラクティスの収集・整理** リサイクル技術を有する事業者の **自治体等への発信の仕組みの整備**
産業廃棄物である企業ユニフォーム等に関しては、広域認定制度を活用した回収を行うことも、故衣料品の回収率を向上させるために重要	周知・広報 **広域認定制度の周知と制度活用**に向けた検討
回収された故衣料品を再利用・再生利用へと確実に繋げることが重要	計画認定・支援措置 事業者等の **故衣料品等を循環利用する計画の認定**と **認定事業者に対する支援措置**の検討

京都市における資源回収の様子

アパレル企業における店頭回収の一例（青山商事、ライトオン）

出典：令和５年９月28日 繊維製品における資源循環システム検討会報告書概要

新国民運動の愛称＝「デコ活」

愛称

国民に広く公募し（8,200件の応募）、愛称公募選定会議で**「デコ活」**※に決定（生みの親↑）

※二酸化炭素(CO2)を減らす(DE)脱炭素(Decarbonization)と、環境に良いエコ(Eco)を含む"デコ"と活動・生活を組み合わせた新しい言葉

普及浸透 ↓ 実践

◆ ロゴ・メッセージ・アクション

デコ活

くらしの中のエコろがけ

◆ **“暮らしの10年ロードマップ”**を
年度内に策定し、計画的に実行

デコ活アクション まずはここから

- デ 電気も省エネ　断熱住宅
- コ こだわる楽しさ　エコグッズ
- カ 感謝の心　食べ残しゼロ
- ツ つながるオフィス テレワーク

950以上の企業・自治体・団体等と協力し、国民・消費者の行動変容、ライフスタイル転換を後押しし、脱炭素製品・サービス等の需要を強力に創出

「デコ活アクション」について

分類			アクション
まずはここから	住	デ	**電気も省エネ　断熱住宅**　（電気代をおさえる断熱省エネ住宅に住む）
	住	コ	**こだわる楽しさ　エコグッズ**　（LED・省エネ家電などを選ぶ）
	食	カ	**感謝の心　食べ残しゼロ**　（食品の食べ切り、食材の使い切り）
	職	ツ	**つながるオフィス　テレワーク**　（どこでもつながれば、そこが仕事場に）
ひとりでにCO2が下がる	住		高効率の給湯器、節水できる機器を選ぶ
	移		環境にやさしい次世代自動車を選ぶ
	住		太陽光発電など、再生可能エネルギーを取り入れる
みんなで実践	衣		クールビズ・ウォームビズ、サステナブルファッションに取り組む
	住		ごみはできるだけ減らし、資源としてきちんと分別・再利用する
	食		地元産の旬の食材を積極的に選ぶ
	移		できるだけ公共交通・自転車・徒歩で移動する
	買		はかり売りを利用するなど、好きなものを必要な分だけ買う
	住		宅配便は一度で受け取る

※デコ活アクションの詳細については、https://ondankataisaku.env.go.jp/decokatsu/action/から確認を。（今後随時追加更新予定）